

第2ワーキンググループの審議対象項目に関し、「審議に当たって、共通的な視点等を勘案して確認・留意すべき点等」として委員より提出のあったご意見

○第2

- 2 統計相互の整合性及び国際比較可能性の確保・向上に関する事項
(3) 福祉・社会保障全般を総合的に示す統計の整備

社会保障関係費用に関する統計はあるが、受益者サイド、あるいは医療・福祉現場サイドの情報は不十分であると考えられるが、現状で十分なのか。

○第2

- 2 統計相互の整合性及び国際比較可能性の確保・向上に関する事項
(4) 医療費に関する統計の国際比較可能性の向上

医療費統計の国際比較は重要な問題であるが、比較可能性を厳密に議論することは、1国内の統計の問題ではなく、OECDやILO、UNなどの国際機関で議論すべき問題である。しかし、国際基準や望ましい統計のあり方を考える必要はあるだろう。

○第2

- 3 社会的・政策的なニーズの変化に応じた統計の整備に関する事項
(9) その他

- 平成22年国勢調査の実施状況を踏まえ、残された調査実施上の課題について、平成27年以降の国勢調査において、更なる改善を図るとともに、調査の内容面について、広く世の中のニーズを踏まえて検討する。

東日本大震災の影響を測るために、「5年前の居住地」を2015年国勢調査でも質問項目に取り入れるのかどうかを確認したい。

- SSDSについて、体系の再構築・再検討には、膨大な労力と時間がかかると考えられる。それよりも、現在公表されているデータの提供をもっと有機的、かつ柔軟にできるようにする方向で考えてはどうか？例えば、「日本統計年鑑」「日本の統計」「都道府県の姿」「市町村の姿」などの関係をもっと有機的にすべきではないか？

- 障害者にかかわる統計について、障害者政策委員会の意見等をふまえ、どのような充実を図るべきか、検討する。